

## 済美養護学校の先生向けアンケート結果

参加人数 39名 回収数 20名 (回収率51.3%)

Q1 これまで関わってきた生徒さんの中で、学校外の福祉制度やサービスの利用を勧めた方、または実際にサービス利用につないだ方はいらっしゃいますか？

いない・・・6名 利用を勧めた・・・8名 実際につないだ・・・6名

Q2 Q1で「実際につないだ」「利用を勧めた」と答えた方にお聞きます。

Q2-1. 学校・家庭生活でどんなことが課題となり、何の制度やサービスにつなぎましたか？(勧めましたか？)

学童保育・・・3名 日帰りショート・・・6名 ショートステイ・・・5名  
 移動支援・・・8名 相談支援・・・3名 入所施設・・・0 済美教育・・・0  
 子家センター・・・1名 児相・・・0 その他(子ども発達 1名)

### \*課題

- ・保護者の負担軽減。
- ・お泊りの経験、母の休息のためお泊りを勧めた。実際に利用した。
- ・保護者が病弱で下校時の育児負担がある。本人にとっても活動が不活発。
- ・学童が終わる小学校高学年から中学生になった時の放課後活動。
- ・家庭で過ごすことにあきてしまい、母子だけで日々を過ごすことが難しくなり他者との関わりをもつ機会を得るため。
- ・放課後や休日の時間の過ごし方、保護者が体調不良等の時預けるところがない。
- ・休日の過ごし方・・・家庭で母と2人であることが多く、母1人では外につれていけないのでヘルパーを紹介した。
- ・ずっと家庭でのみ過ごしているので保護者、こどもともいきづまってしまう。
- ・実際にサービスを利用するにあたり、金銭面の問題や人気があり順番まちだっただけの問題がある。
- ・連日の大幅遅刻、生活リズムの改善、家庭の養育力向上。
- ・関節可動域制限がみられ拘縮も進んでいることから、定期的に専門的療法士による訓練の必要性を感じたため。

Q2-2 制度利用・サービス利用は、円滑に進みましたか？

はい・・・9名 いいえ・・・5名

\*円滑でなかった場合、その原因は何でしたか？

- ・役所の手続きに時間を要した印象がある。
- ・保護者の気持ちはあるが、実際参加に動くことが億劫そうだった。
- ・保護者の利用施設情報を収集段階。
- ・保護者が他人の手をかりたり、預けたりすることに抵抗があった。
- ・条件の合うサービスがなかった。
- ・すぐにショートの予約が取れず、母が挫折した。(そんな労力を使ってまで・・・)
- ・保護者の金銭状態、順番待ちでなかなか予約が取れないなどの理由
- ・学校からの相談は丁寧の受け止めてもらっていたが、緊急性がなく保護者に強い改善意志がないため、相談・利用には至らなかった。

Q2-3 実際に利用にはつながりましたか？

はい・・・7名 いいえ・・・6名

\* つながらなかった場合、その原因は何でしたか？

- ・ 家族や知人で十分フォローできている状態だった
- ・ 保護者の利用施設情報を収集段階。
- ・ 利用したいという思いはあっても、手続きまでいたらなかった等
- ・ 条件の合うサービスがなかった。
- ・ 保護者の金銭状態、順番待ちでなかなか予約が取れないなどの理由
- ・ 保護者自身の努力で改善したいとの意向があった。(実行は困難だったが・・・)

Q3 現在関わっている生徒さんの中で、学校外の福祉制度やサービスの利用が必要だと感じられる方や、利用を勧めたい方はいらっしゃいますか？

はい・・・15名

いいえ・・・5名

Q4 Q3で「はい」と答えた方にお聞きします。

Q4-1 現在、学校・家庭生活で、どんなことが課題となっていますか？

- ・ 放課後の過ごし方・・・6名(学童がなくなった後の過ごし方という意見含む)
- ・ 本人の家での過ごし方が、ただ寝ているだけなので勿体ないなと思った。
- ・ 家庭で抱えている感じなので、将来に向けて少しずつ利用したほうが良いと考えます。
- ・ 生活の場が学校と家庭しかないこと
- ・ 子どもが家庭で1人で過ごす時間が長い(母子家庭・父子家庭・両親とも働いている)
- ・ 保護者が我が子をなかなか外に出すことができない。(外出・・・奇声、パニック・サービス利用・・・うちの子を見てくれるところなんてないのでは、という不安)
- ・ 高等部ではスクールバスの利用ができないので、自力通学に向けての通学練習。また保護者が送迎できない場合の通学支援
- ・ 朝、登校時間に間に合わず、毎日遅刻している。
- ・ 送迎のバスポイントから学童までの間、ヘルパーに付き添ってもらっているが、距離が長くて契約時間の30分を越えてしまう。サービス時間の延長を希望したが、ヘルパーが確保できなくて困っている。
- ・ ショートステイなど利用できれば保護者の負担が楽になると思うが、食事面や泊まりの前に寝られなくなるなどの課題がある。
- ・ 保護者が悩みを相談できる場所が少ない家庭がある。

Q4-2 その課題への対応のために、どのような支援が必要だと感じますか？

- ・ 保護者の理解を深める支援
- ・ 保護者の考え方の改善(利用してみようと思っていただくことが必要)
- ・ 実際に利用されている家庭の話を伝え、本人、家庭の両方にとってどのようなメリットがあるのか等を話していくこと。
- ・ 色々なことが経験できる支援
- ・ 中学部から成人に向けた余暇活動の支援
- ・ 学童保育・ショートステイ・タイムケアなど
- ・ 有効な余暇活動の紹介など
- ・ 日帰りなどから始める
- ・ 通学練習のための支援・登下校の支援
- ・ 食事対応をしてくれるか等調べる
- ・ 学校以外で相談できる場を紹介・不安が大きい保護者については担任も同行する。
- ・ 気軽に相談できる場所や受け入れる施設等(選択肢があることも重要)が必要